

技術者の質・量確保へ

JER補改修協 定期総会 技術委員会を新設

JERコンクリート補改修協会(佐藤匡良会長)は8月18日、令和3年度定期総会をオンライン形式で開催。協会の認知度向上と専門技術者育成等に努める内容の事業計画案等を審議し決定した。

昨年度は新たに技術委員会を設立。協会取扱い工法の新規認定は技術委主導で施工物件の追跡確認等を行つたこととした。委員会活動としては、施工品質向上を目的に現場訪問等を今後実施する予定。

プライベートライセンスであるJER専門技術者資格については昨年度新たに80人にライセンスを交付。コンクリート防食技術士資格には会員企業から23人が合格した。

今年度の活動方針としては、引き続き技術者育成に注力。専門技術者としての技能向上による品質確保の徹底に加え、今後の改築更新需要の増大

を見据えた対応人員確保と、質・量双方を重視し活動を強化。今年度もコンクリート防食技術士の講習・受験・登録費用の助成などを実施する。

協会の認知度向上へ向けた取組みとしては、協会ウェブサイトの機能拡充・更新等を進める。

会員動向については、昨年度は寺島塗装店、クリンサービス、日本水機工、フマイクリンサービス、ウォーターリンク、シオン、ベストム、メイクス、三友化工の9社が入会。今年度は中国富士化工建設、東亜興業、成蹊建設が入会した。

人孔老朽化 対策進展へ

JER管路部会総会
JERコンクリート補改修協会管路部会(井上敬介部会長)は8月18日、オンライン形式で総会を開催。マンホール更生・

防食事業進展を見据えPR活動に注力する方針をまとめた。

冒頭、井上部会長は「国の第2次インフラ長寿命化計画等を受け、マンホールでも老朽化対策が進展すると考えている。自治体・コンサル対

象の研修会を通じ、機運をさらに高めることが重要」と述べ、オンライン開催も含め細やかな対応に努める考えを示した。

主な活動としては昨年3月に新工法「ジックボードJ工法」が日本下水道新技術機構の建設技術

審査証明を取得。今年2月には菅屋市内で施工見学会を実施した。

今年度は、東日本、西日本で支部を設立。地域密着型の営業・技術提案活動に努める。また今年度は部会認定工法の積算ソフトも整備する予定。